

神戸という街

武田繁友部

神戸といえは、むかしから、エキゾティック

ク在港町というの、定説のようになつてい

横浜の場合でもそうだろうが、互にかは、街

の左左利まいは、はたは、異國的である。戦

前でいえば、旧居留地から海岸通りへつづく

高館街、支那人の衣の軒さつらぬてい、た南京

町、あるいは山の手、北野、山本通りの異人

館など、東京ありては、見らぬ風景であつ

た。戦災で街のほとんどの灰燼に帰してしま

つた戦後でも、やはり、往年の異國的な面影

が、どことは、なこは、この街には残つてい

る。いかに、そのいは、いかに、神戸の表情レであ

つて、この街の志に、あるべきものは、かあら

おし、異國的な、とは、いえない、と、ぼくは

は、思えるので、ある。おし、その逆である。

周知のようは、神戸という街は、維新後、

兵庫の開港して、生れ、新興都市である。それ